

平成30年度 「学生プロデュース」実施結果報告書

1 プロジェクト名				
外国人児童への日本語支援と図画工作科のアプローチ				
2 実施日程				
8月5日(日)				
3 実施内容				
外国人児童を含む地域の児童を本学柏原キャンパスに招待し、図画工作科のワークショップを行った。午前中に粘土を使って貯金箱をつくり、午後は藍染めで手ぬぐいとTシャツを染めました。 オープンキャンパスでの活動見学、活動の周知は台風のため中止となりました				
4 経費の使途				
事 項	数 量	単 価	合計金額	備 考
粘土	1	1940	1940	
作品の送料	1	766	766	
ヒートン	3	425	1275	
ガーゼハンカチ	1	2073	2073	雑巾の代替品
練り込み用顔料	18		10012	釉薬、カレットガラスの代替品
キーホルダーの先	3	504	1512	
白いシャツ	16	604	9664	
白い手ぬぐい1疋	1	4280	4280	
ゴム手袋(大)	6	308	1848	
ゴム手袋(小)	9	308	2772	
合 計			36142	

5 プロジェクトの成果

近年、日本の小学校に転入する外国人児童・生徒が増加している。法の改正などにより、今後も増加の一途をたどることが予想される。

そこで、多くの専門性のある本学でワークショップを開き、外国人にルーツのある児童の活動、支援方法を模索することを目指した。

本プロジェクトは3つの目標を掲げ、活動していた。まず1つ目は『外国人児童もふくめた児童のワークショップの開催』である。

教育現場では多くの日本人の児童とともに学習する機会が多いため、ワークショップでも、外国にルーツのある児童と日本人の児童が共存する中での開催を目指した。

2つ目は、『留学生との協力による活動に展開』である。

本学の特徴として多くの留学生が長期にわたり留学している。自国の文化と言語を深く理解している彼らと協力して、よりよい日本語に慣れていない児童の支援方法を模索した。

3つ目は『地域の児童との交流』である。

大学は普段、地域との交流が少ない印象があり、地域の児童を招待することで、新たな地域とのつながりや、大学の魅力の発見につなげたいと考えた。

当日の参加状況は以下である。

参加児童:8名(うち海外出身で日本語の支援が必要な児童2名)

児童観察の結果:アンケートで多くの児童がねんどや藍染が初体験で楽しかったという感想を得た。軽くアイスブレイクを行った後グループワークで作業を行い、初めは日本人児童のみのグループが形成されたが、時間が経つうちにお互いの作品を見ることなどによって距離が縮まっていった。ワークショップ後半では、言葉は通じなくとも一緒に作業したり、片付けをしたりするなど、協力している様子が見られた。

考察:保護者へのアンケートなどでは図画工作科がこのような支援に効果的であるという感想をいただいた。支援の方法としては視覚的支援だけでなく、初めの自己紹介やグループワークの席順ひとつ取っても関わりにつながる部分があり、実際の学校などでも同じことがいえると考えられる。



(まとめと反省)

今回の参加者で外国人児童は結果的にベトナムにルーツのある児童のみとなったが、招待した中には中国にルーツのある児童もおり、実際の現場では様々なルーツを持つ子どもがいる。そのような中で、色々な取り組みを行うことは肝要だと感じた。また継続して行う必要性も感じた。

今後の社会のニーズに、よりの確にこたえるために、さらなる支援が求められる。

反省として、ワークショップを行い、その活動の存在を周知することが出来ていなかった。予定していた7月は台風のため中止となり、大学のオープンキャンパスに合わせて、より多くの方に公開しながらおこなうつもりであったが、できなかったことが悔やまれる。また、日程の再調整のため、参加してくれた児童の国籍に偏りがあったこと、人数が少なかったことがあげられる。

総じて、新しい取り組みを地域と一体となり行えたことが、本プロジェクトの収穫であったといえる。

